

# ゼネラルパッカー通信

平成28年7月期(第55期)中間

2015年8月1日▶2016年1月31日

証券コード：6267



世界の品質を  
“包装”で守る



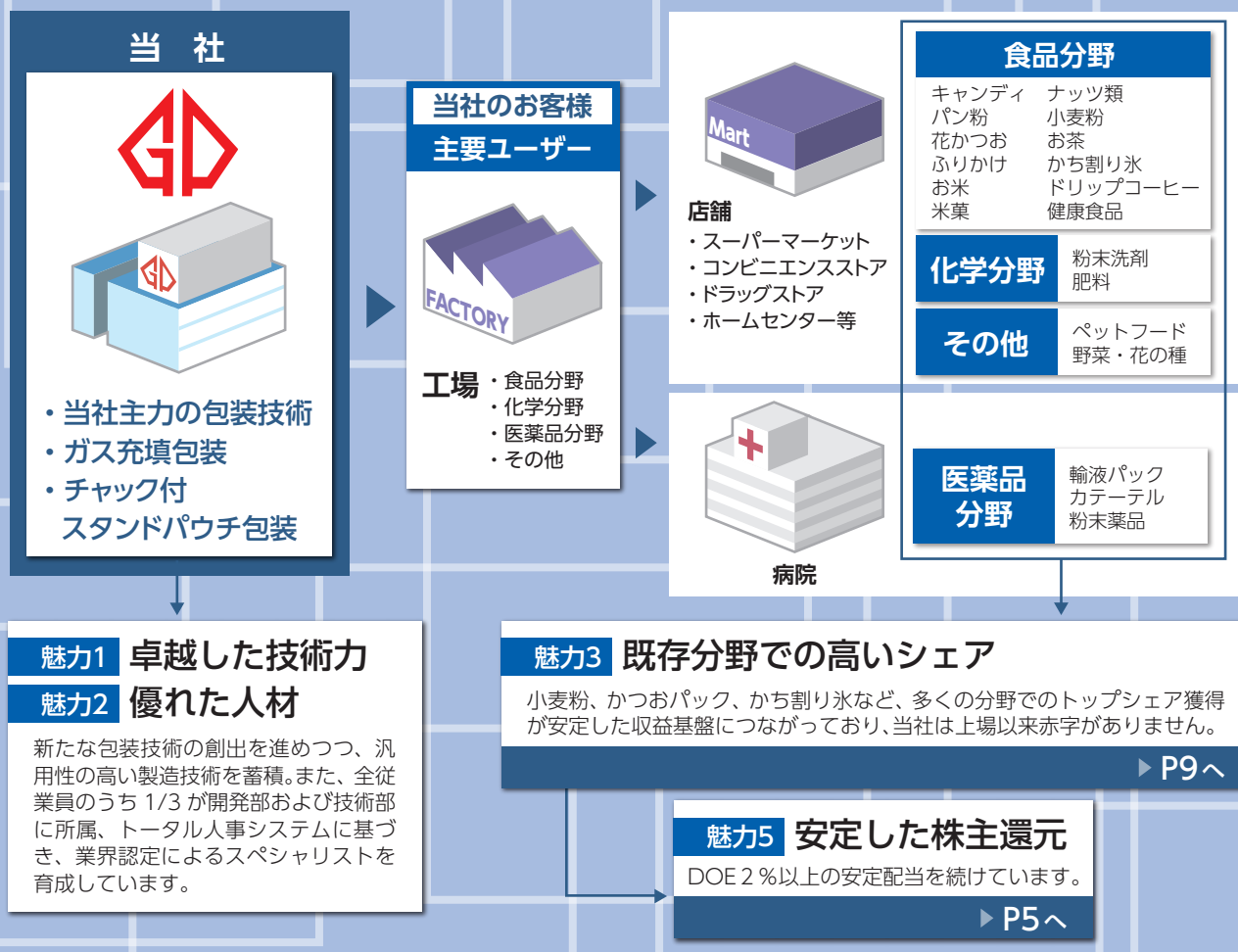
包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

# ■ 社 是 創造と挑戦 — 感ずる、信ずる、行動する —

■ 経営理念 わが社はつねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

## ゼネラルパッカーは、包装システムの課題解決型メーカーです。



## 第4次中期経営計画

■ 経営ビジョン  
 世界に飛躍する GP ブランド  
 One stop で応えるソリューションカンパニー  
 挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』

**海外市場での成長基盤構築へ**  
 持続的成長に向けてグローバル企業を目指す

**国内 安定的な売上高の確保**

- 顧客関係の深化、新機種の投入
- ソリューションビジネスの拡大

**海外 海外事業の強化**

- 中国・東南アジア 市場の販売基盤の確立
- 海外市場向けの商品拡大

**海外市場**  
 世界20カ国  
 ・中国 ・タイ  
 ・台湾 ・カナダ  
 ・フランス など

**魅力4 新規分野・海外分野への成長**  
 これから伸びが期待される医薬品・介護分野、また海外マーケットでの成長を続けています。

経営目標	第4次中計
売上高	H29.7期目標
売上高経常利益率	5.5%以上
ROA (総資産経常利益率)	5.5%以上
ROE (自己資本当期純利益率)	6.0%以上

業績目標	H29.7期目標
売上高	5,500百万円
営業利益	295百万円
経常利益	300百万円
当期純利益	200百万円

- 基本戦略**
- 1 顧客関係の深化と新機種投入により、国内市場で安定的な売上高を維持する
  - 2 海外事業を強化し、海外市場向けの売上高の大幅な伸長を目指す
  - 3 顧客の期待にワンストップで応え、ソリューションビジネスの拡大を図る
  - 4 競争力強化と海外市場開拓のための商品開発を推進する
  - 5 顧客が安心して生産活動できる包装システムとサービスの提供で、顧客満足度を得る
  - 6 事業領域拡大のための M&A・アライアンスを推進する

## 持続的成長を実現していくために 海外市場への展開を進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。  
ここに当社第55期第2四半期累計期間（平成27年8月1日から平成28年1月31日まで）の営業状況と通期の見通しをご報告させていただきます。ご一読の上、当社事業へのご理解とともに、今後の成長に一層ご期待くださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **梅森 輝信**

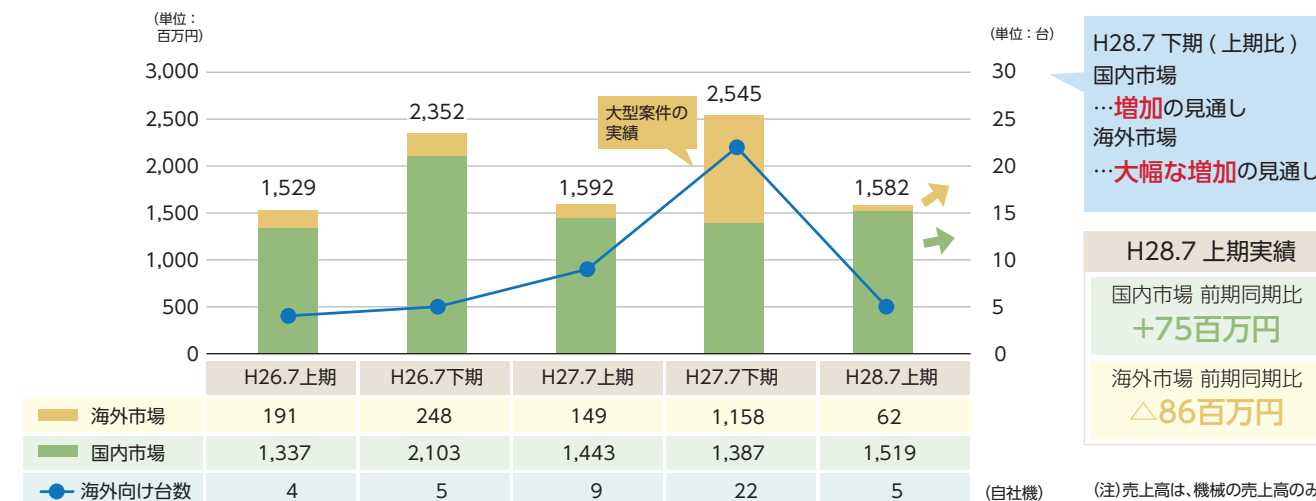
### 当期前半の事業環境と営業活動の成果

包装機械業界の事業環境は、引き続き堅調に推移しており、平成27年度の生産高は、業界全体で4,100億円を超える見通しです。また、1月から12月までの包装機械および荷造機械の四半期毎の生産金額も400億円台と、高水準を維持しています（経済産業省 生産動態統計確報より）。

当社の営業活動においては、包装機の受注が好調に推移し、機械受注高は前年同期を上回る実績となりました。そのうち自社機品目の受注高は、前年同期比で約4割増加しました。売上高は、高額案件で売上時期の遅延が複数発生したことから、期初の計画値に届きませんでしたが、利益面については、研究開発費等の減少により計画以上の確保となりました。

売上を品目別に見ると、給袋自動包装機は高性能機種種の販売増により伸長したものの、製袋自動包装機および包装関連機器は前年同期を下回り、保守消耗部品その他も微減となりました。エンドユーザーの業界別に見

### 国内・海外市場別売上高（エンドユーザー市場）



ると、主力の食品業界向けの売上高が減少する一方、化学関連業界向けが増加し、ペットフード用や種苗用などその他の業界向けも拡大しました。

### 海外事業の拡大に向けた取り組み状況

第4次中期経営計画では、平成29年7月期までの3年間を「海外市場での成長基盤構築の時期」と位置付け、国内市場における安定的な売上の確保とともに、海外事業の強化を目指しています。前期はその取り組みの一環として、海外営業部の増員や上海駐在員事務所の開所など、海外販売体制の拡充を図りました。引き続き当期は、海外営業部の増員を実施し、中国市場における代理店の営業活動支援や、東南アジア市場での新規販売チャネルの開拓を進めています。

当期前半の海外市場向け機械受注高は、ペットフード用を中心に増加し、前年同期以上の実績となりました。第2四半期までの納入台数は、台湾2台およびタイ3台に

とどまり、売上拡大につながっていませんが、期末にかけて、中国・タイ・インドネシア・ベトナム・フィリピン・ポーランド・アメリカの各地で納入を予定していることから、当期後半の売上高は前半を大きく上回る見込みです。

ただし、通期の海外市場向け機械売上高として計画していた8億円については、高額案件の受注減少を鑑み、5億30百万円に下方修正しました。

当社は今後、海外事業のさらなる強化に向けて、競争力の向上と海外向け商品の開発に努めつつ、グローバル企業や日系企業の海外拠点をターゲットに、企画提案営業の展開を加速していく考えです。

### 当期後半の見通しと通期業績予想

当期後半の業績は、第2四半期までの受注が順調に推移しており、売上時期が遅延していた高額案件についても計上を予定していることから、前半の計画未達を挽回



できるものと見ています。

通期における売上高の見通しは、前述の通り海外市場での機械売上高を期初予想から下方修正する一方、国内市場では、販売台数の増加により機械売上高および保守消耗部品売上高をそれぞれ上方修正し、全体では増減相殺で変更なしとします。

以上により当期の業績については、期初予想を変更せず、売上高50億円(前期比7.6%減)、営業利益2億48百万円(同20.9%減)、経常利益2億50百万円(同21.8%減)、当期純利益1億65百万円(同26.5%減)を見込んでいます。

### 株主の皆様へのメッセージ

今回の第2四半期末配当につきましては、予定通り1株当たり3円50銭とさせていただきます。

なお当社株式は、平成28年2月1日付で5株につき1株の併合を実施し、また同日付で単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。これは、当社株式の投資単位を証券取引所が望ましいとしている水準に保つとともに、株主の皆様の安定的な保有や中長期的な株価変動を考慮したものです。

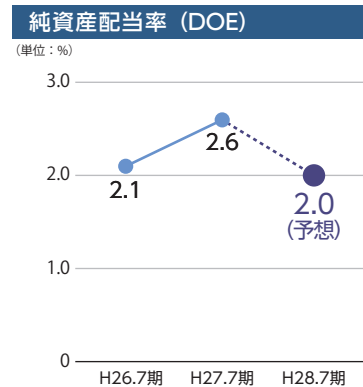
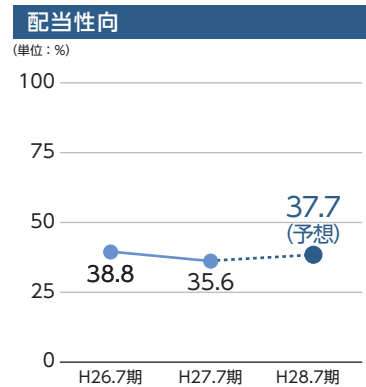
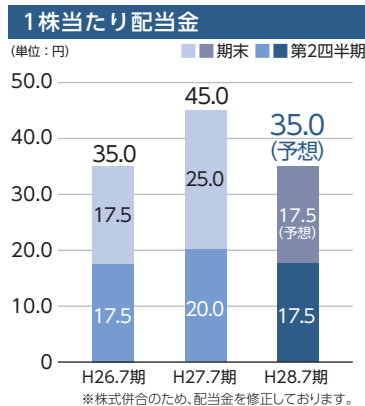
期末配当につきましては、同17円50銭を予定しており、株式併合前の水準では同3円50銭、年間配当額は同7円となります。

当社は「持続的成長に向けてグローバル企業を目指す」という中期経営計画のテーマを通じて事業を発展させ、より大きな社会的貢献を果たしてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業への継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向 50%または純資産配当率(DOE) 2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。



### 特集

## 挑戦心と活気あふれる「ものづくり企業」

研究開発力の強化とそれを支える技術系人材の育成は、将来の成長を担う重要な課題です。私たちは「ものづくり企業」に求められる挑戦心と活気を高め、より優れた技術基盤の構築を目指しています。

開発・技術部人員数の推移 (単位:人)

	H23.7期末	H24.7期末	H25.7期末	H26.7期末	H27.7期末
従業員	119	123	124	127	131
内 開発・技術部人員	32	34	38	40	42



### 開発・技術戦略

複雑化・高度化するニーズに応え、お客様の問題を解決する価値創造へ

当社が目指している海外事業の強化とソリューションビジネスの拡大には、技術研究・商品開発による価値創出が不可欠です。その根幹となるのは、複雑化・高度化する生産現場のニーズに応え、お客様がかかえる問題を解決していく「ものづくりへの挑戦心」です。これまでに培ってきた知見と独創的な発想を活かし、優れたものづくりで時代の要請に応えるべく、当社は今、下記の開発・技術戦略を推進しています。

#### 開発・技術戦略

- 1 次世代包装機および海外市場向け新機種
- 2 メカトロモーション技術の新たな創造
- 3 新しいコア技術による差別化
- 4 設計の標準化および構成部品の共通化
- 5 人材育成による開発力・トータルプラン力の強化

### サポート体制

自発性を活かす形で技能向上を図り、包装機械のプロフェッショナルを輩出

事業成長の源泉である開発力をより強固なものにするために、当社は技術系人材の育成に注力しています。社内教育システムでは、設計や組付の基本研修に始まり、ジョブローテーションによる経験の蓄積や、職能資格の取得を通じた研鑽をベースに、社員一人ひとりの自発性を活かす形で技能向上を図っています。また、業界団体が運営する「包装学校」のプログラム受講により、エキスパートとしての専門性を確立させています。

経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、個人消費が底堅い動きとなり、雇用・所得環境や企業収益については改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

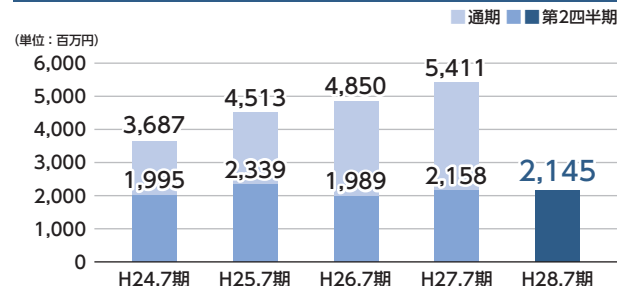
このような状況のなか、当社は海外事業の強化、ソリューションビジネスの拡大に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間における売上高につきましては、給袋自動包装機の売上高は増加したものの、製袋自動包装機及び包装関連機器等の売上高が減

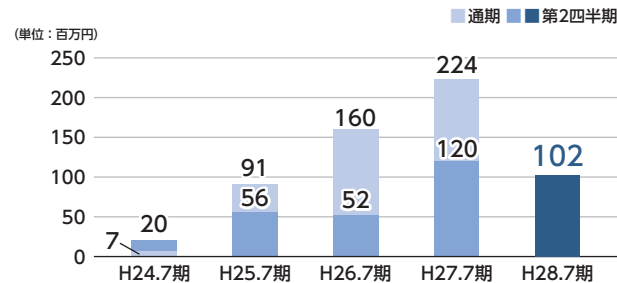
少したことから、前年同期に対し12百万円減収の2,145百万円(前年同期比0.6%減)となりました。

利益面につきましては、減収に伴う売上総利益の減少に加え、販売費及び一般管理費が前年同期から増加したことから、営業利益153百万円(前年同期比8.8%減)、経常利益153百万円(前年同期比11.5%減)、四半期純利益102百万円(前年同期比14.9%減)と前年同期に対し減益となりました。

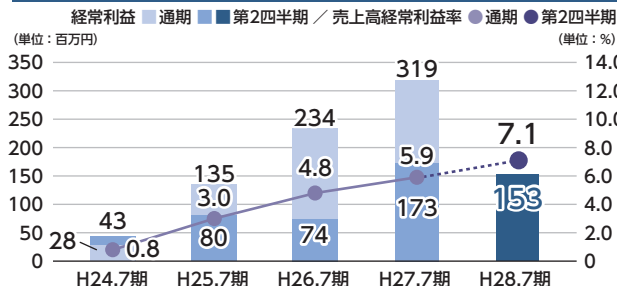
売上高



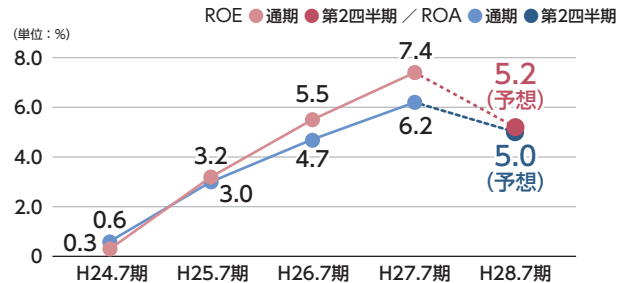
当期純利益



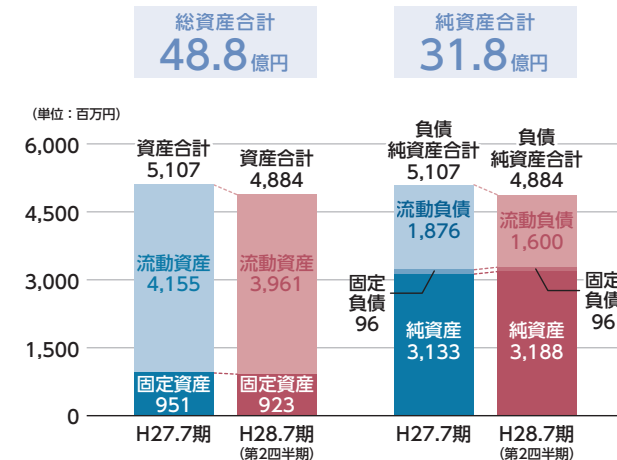
経常利益 / 売上高経常利益率



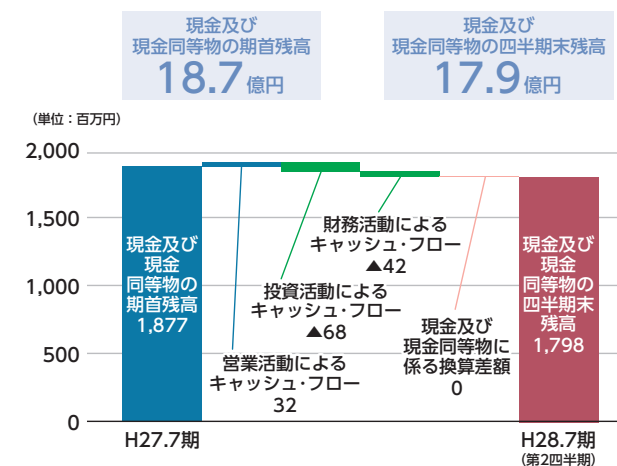
ROE / ROA



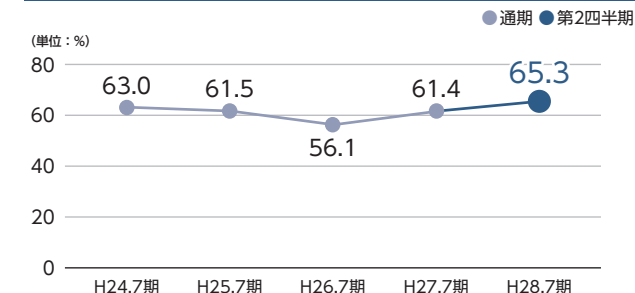
財務状況



キャッシュ・フローの推移



自己資本比率



財務分析

当第2四半期会計期間末における流動資産は、売上債権及びファクタリング方式により譲渡した売上債権の未収額の合計額が減少したこと等により、前事業年度末に比べて193百万円減少いたしました。流動負債は、仕入債務等が減少したこと等により、前事業年度末に比べて276百万円減少いたしました。純資産は、利益剰余金の増加等により、前事業年度末に比べ54百万円増加いたしました。

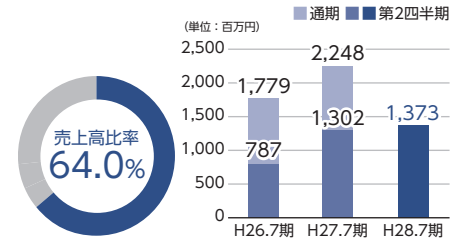
キャッシュ・フロー分析

営業活動の結果得られた資金は、32百万円(前年同期は216百万円の使用)となりました。収入の主な内訳は、売上債権の減少額175百万円、税引前四半期純利益153百万円等であり、支出の主な内訳は、仕入債務の減少額177百万円、法人税等の支払額95百万円等であります。

給袋自動包装機（ガス充填自動包装機含む）

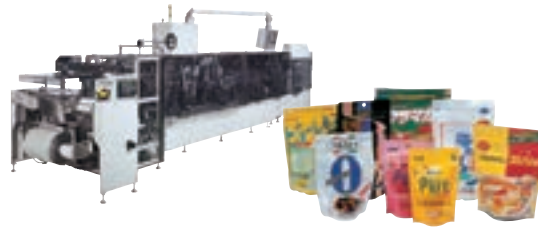


給袋自動包装機は、高性能機種の販売実績が増加したことから、売上高は1,373百万円(前年同期比5.5%増)となりました。

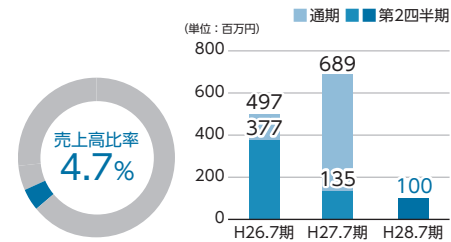


売上高 1,373 百万円 前年同期比5.5%増

製袋自動包装機



製袋自動包装機は、販売台数が減少したことから、売上高は100百万円(前年同期比25.8%減)となりました。

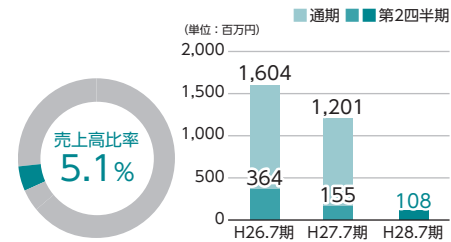


売上高 100 百万円 前年同期比25.8%減

包装関連機器等

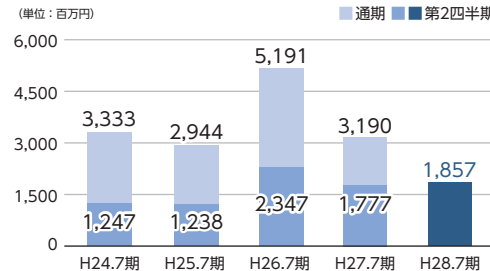


包装関連機器等は、包装システムの販売実績が減少したことから、売上高は108百万円(前年同期比30.1%減)となりました。

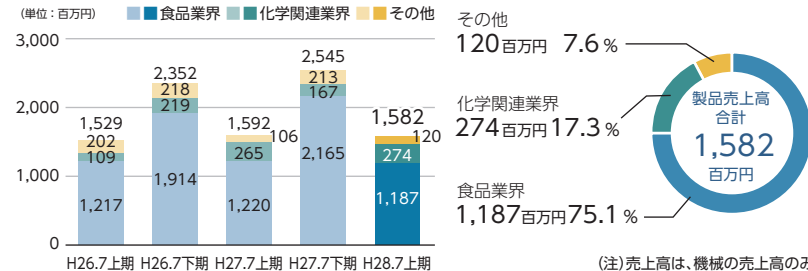


売上高 108 百万円 前年同期比30.1%減

機械受注高



最終ユーザー業界別売上高



会社概要 (平成28年1月31日現在)

商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	昭和41年2月(創業 昭和36年12月)
資本金	2億5,157万7千円

事業内容 各種自動包装機・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理、それに附帯する一切の業務

従業員数 130名

本社・工場 〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地  
Tel.(0568) 23-3111 (代)  
Fax.(0568) 22-3222



東京営業部 〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F  
Tel.(03) 3256-3891 (代)  
Fax.(03) 3256-3893



取締役及び監査役 (平成28年1月31日現在)

代表取締役社長	梅森輝信	
専務取締役	小関幸太郎	管理部 兼 資材部担当
常務取締役	鈴木完繁	生産部担当
取締役	牧野研二	開発部長 兼 技術部担当
取締役	尾関津義	営業本部長 兼 システムソリューション部担当
取締役	濱田兼幸	
常勤監査役	福井義雄	
監査役	村橋泰志	
監査役	浅井一郎	

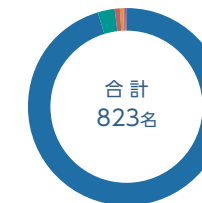
株式の状況 (平成28年1月31日現在)

発行可能株式総数	28,000,000株
発行済株式総数	8,994,000株
株主数	823名

大株主 (平成28年1月31日現在)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社ワイ・イー・データ	1,350,000	15.20
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,343,000	15.12
原利子	399,625	4.49
株式会社りそな銀行	392,000	4.41
高野季久美	364,000	4.09
田中かな	364,000	4.09
ゼネラルパッカー取引先持株会	342,000	3.85
梅森輝信	252,000	2.83
島末孝法	196,000	2.20
原紳二郎	150,250	1.68

株主数構成比



株式数構成比



個人・その他	株数	比率
個人・その他	785名	95.38%
その他法人	24名	2.92%
金融機関	6名	0.73%
証券会社	5名	0.61%
外国人	2名	0.24%
自己名義	1名	0.12%

個人・その他	株数	比率
個人・その他	6,598,169株	73.36%
その他法人	1,680,400株	18.68%
金融機関	508,000株	5.65%
自己名義	107,024株	1.19%
証券会社	62,407株	0.70%
外国人	38,000株	0.42%



# IR サイトでも、詳しい情報を提供しています。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

[http://www.general-packer.co.jp/ir\\_index.html](http://www.general-packer.co.jp/ir_index.html)

企業ホームページ  
最優秀サイト  
日興アイ・アール  
新興市場ランキング  
5年連続受賞



## 個人投資家の皆様へ

業界情報や事業内容や特長、配当についてわかりやすく解説しています。

▲トップページ

## 株式併合 単元株式数変更のご案内

株式併合

5株→1株

単元株式数

1,000株→100株

平成 27 年 10 月 23 日開催の第 54 期定時株主総会決議に基づき、定款を変更し、平成 28 年 2 月 1 日付で当社普通株式 5 株を 1 株の割合で株式併合いたしました。それに伴い、1 株あたりの配当金に関しましても、5 倍に変更しております。また、単元株式数も 1,000 株から 100 株に変更しております。

※なお、株主各位におかれましては、一切の手続きは不要です。念のため申し添えます。

## 株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社

同事務取扱場所	〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
お問い合わせ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 Tel. 0120-707-843 (フリーダイヤル)

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL <http://www.general-packer.co.jp/>

## 各種手続きのお申出先

- 未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

包装システムのトータルプランナー  
**ゼネラルパッカー株式会社**

●本社・工場  
〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地  
Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222  
●東京営業部  
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F  
Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893

UD  
FONT

ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC® C022915

VEGETABLE  
OIL INK